

下田市立小学校の在り方に関する提言書

趣旨

本検討会議では、市内小学校7校がいずれも小規模校となっている現状を踏まえ、「小規模校として存続する場合」及び「学校統合を行う場合」について、それぞれのメリット・デメリットを整理するとともに、それらの課題を乗り越えるための、既存の枠組みにとられない下田市独自の教育の在り方について協議を重ねてきました。

本提言書は、これまでの協議内容を基に、今後、小学校の在り方や魅力化を検討していく上で、教育委員会において特に留意していただきたい視点や考え方を整理したものです。

1 学びの環境について ー学びの仕組みづくりー

少人数教育のよさを大切にしながら、同時に一定規模の集団の中で刺激を受け合う経験も重要であると考えます。そのために、学年や学級、さらには学校の枠にとられない柔軟な学びの環境・子供が選択できる多様性を保障する学びの仕組みづくりについて検討することが望まれます。

- ・発達段階に応じて、単元や学期など、学ぶ場所や学習形態を選択できる仕組み
- ・少人数指導、合同授業、オンライン授業などを組み合わせた多様な学びの在り方
- ・学びの選択を可能にする交通手段や移動支援の具体的な整備

2 指導体制について ー学校を“点”から“学校群”へー

学校を「点」として捉えるのではなく、相互につながり合う下田の「学校群」として捉え、教職員の専門性を活かしつつ、学校を超えた協働を可能にする指導体制について検討することが望まれます。

- ・教職員が学校間を兼務するなど、専門性を生かした指導体制の構築
- ・柔軟な教育課程編成や制度の活用を含めた新たな教育の在り方の研究

3 七色の学校づくりについて ー地域と未来の下田をつなぐ学校ー

地域と未来の下田をつなぐ教育の拠点として、地域資源を生かした特色ある7校の魅力づくりについて検討することが望まれます。

- ・各地域の自然・産業・文化・人材を活用した体験的・探究的な学びの充実
- ・地域と連携した特色ある教育課程の開発による学校の魅力化

結び

本市の今後の小学校の在り方は、単に児童数の推移のみで判断すべき問題ではありません。重要なのは「15歳までにどのような力を身に付けさせたいのか」という目的から逆算して、未来の学校の姿を想像し、それに適した教育環境を設計することです。

教育委員会におかれましては、学校現場の実態把握や将来推計を丁寧に行うとともに、本提言で示した視点について制度面・財政面・先進事例等の調査研究を進め、本市に最も適した教育の形を構築していくよう検討していただきたいと思えます。

本検討会議で共有された「下田だからこそできる教育」の実現こそが、未来の下田を担い、地域に誇りをもって主体的に生きる子供の育成につながるものと考えます。